

Technical Description
Beauty Therapy

職種定義

ビューティーセラピー



ワールドスキルズインターナショナルは、その競技運営委員会の決議により、またその憲章、運営規則および競技規則に基づいて、技能五輪国際大会の本職種における下記の最低要件を承認している。

本職種定義は以下の内容で構成されている。

- 1 序文
- 2 ワールドスキルズ職業基準 (WSOS)
- 3 評価戦略と仕様
- 4 採点スキーム
- 5 競技課題
- 6 職種管理と情報伝達
- 7 職種限定の安全要件
- 8 材料と機材
- 9 職種限定規則
- 10 来場者とマスコミに対する職種の広報活動
- 11 持続可能性
- 12 産業界との協議に関する情報
- 13 付録

1 序文

1.1 職種競技の名称と説明

1.1.1 職種競技の名称

ビューティーセラピー

1.1.2 関連する職務または職業の定義

ビューティーセラピストは一般的に商業セクター（分野）で働き、個人の顧客に対してスキンケアやボディケア、マッサージ、メイクの専門的なサービス、施術、アドバイスを提供する。要求されるサービスの性質や品質と、顧客が支払う対価との間には直接的な関係がある。そのため、ビューティーセラピストは、満足感を与え、そうしてビジネスを維持・成長させていくため、プロとしての仕事と顧客との対話に継続的な義務を負う。また、ビューティーセラピーは美容/理容、ファッション、メディアのような他のサービス・セクターや、その仕事を支える多くの製品やサービスとも密接な関係があり、一般的には営利目的である。

ビューティーセラピーには、個人の自尊心と自信を支えるという面で重要な治療的役割がある。病気による影響を改善する手助けをし、回復を助けることもある。

ビューティーセラピストは、レジャーや健康に関連する組織内の大小のサロンなど、さまざまな環境で働く。ビューティーセラピストは顔、身体、足、手、爪に関する専門的なサービス・施術を提供する。例えばマニキュアやペディキュア、あるいはスキンケアのいずれかを専門にしている場合もある。専門分野にかかわらず、作業の構成と管理、プロとしての姿勢、顧客への心配りや顧客との人間関係は、優秀なビューティーセラピストに共通する特質である。

ビューティーセラピストは顧客と1対1の関係の中で働き、多人数のチームの一員となる場合もあるが、どのような業務体制であろうと訓練を積んだ経験豊富なビューティーセラピストは高い水準の個人的責任感と自主性を有している。安全な仕事に細心の注意を払って顧客の健康とウェルビーイングを守ることから、特別な機会にメイクの効果を大いに発揮させることまで、すべての施術と顧客が重要である。

ビューティーセラピーのサービスと関連商品の需要の世界的な高まり、人の国際的な流動性により、ビューティーセラピストが直面する機会や課題は急速に拡大している。才能あるビューティーセラピストには多くの商業的・国際的機会があるが、それにより、多様な文化やトレンドを理解し、対処することが必要となる。そのため、ビューティーセラピーに関するスキル（技能）もますます多様化するものと思われる。

1.1.3 チームの選手数

ビューティーセラピーは選手1人による職種競技である。

1.1.4 選手の年齢制限

選手はその技能競技大会の年において22歳以下でなければならない。

1.2 本書の位置づけと重要性

本文書は、この職種競技で競うために必要となる基準、また、競技を運営する上での評価指針や方法と手順に関する情報を含む。

各エキスパートと各選手は、この職種定義について理解しておく必要がある。

「職種定義」の異なる言語間の解釈の相違に際しては、英語版が優先される。

1.3 関連書類

この職種定義は職種限定の情報のみを含むため、以下のものと共に用いること。

- WSI-倫理行動規程
- WSI-競技規則
- WSI-ワールドスキルズ職業基準の枠組
- WSI-ワールドスキルズ評価戦略
- WSI-本文書に記されているオンラインの情報源
- ワールドスキルズ安全衛生および環境に関する方針と規制
- ワールドスキルズ基準評価ガイド（職種限定）

2 ワールドスキルズ職業基準（WSOS）

2.1 WSOSに関する一般的な説明

WSOSは、技術的および職業的能力における国際的な最良事例の土台となる知識、理解、技能と能力について詳述している。これらは職業的役割に特化していると同時に横断的である。それらは共に、業界や企業においてその関連する職務または職業が何を意味するかについて、全世界で共有される理解を反映したものでなければならない（www.worldskills.org/WSOS）。

職種競技はWSOSの記述に従い、国際的な最良事例を可能な限り反映することを目的としている。したがって、WSOSは職種競技のために必要とされる訓練や準備についての指針でもある。

職種競技において、知識や理解の評価は実技の評価を通して行われる。知識や理解力のテストはやむを得ない理由が無い限り、別途行うことはない。

WSOSは項目付きのセクションで区切られ、参照番号が付いている。

各セクションで合計点における割合（パーセント）が定められ、WSOSに占める相対的重要度が示されている。これはしばしば「重要度」と呼ばれる。パーセント評価をすべて合計すると100になる。重要度は、採点スキーム内の評点の配分を決めるものである。

競技課題を通して、採点スキームはWSOSに記載されている技能と能力のみを評価する。それらは職種競技の制約内で可能な限り包括的にWSOSを反映する。

採点スキームは実際に可能な範囲で、WSOS内の評点の割り当てに従う。WSOSで規定されている重要度を歪めないのであれば、最大5%までの変動は許容される。

2.2 ワールドスキルズ職業基準

セクション		相対的重要度 (%)
1	作業の構成と管理	8
	<p>各自は以下を知り、理解していること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ビューティーセラピー産業に適用される健康、安全、衛生に関する法律、ルールや規則 各種美容施術に使用される道具、器具、電気器具の種類と目的およびそれらの安全な使用、維持、保管の方法 製品、化粧品およびその成分に関連する目的、用途、管理、潜在的なリスク 製造業者の指示を常に遵守することの重要性 医療専門家からの照会に対応する際のプロフェッショナル（専門家）としての倫理観 人間工学の原則 各施術の所要時間 目標が果たす役割も含めたビジネスの原則 事業の成功を維持する上での個人の役割 自身の専門性の発展に継続的に取り組む重要性 <ul style="list-style-type: none"> ビューティーセラピー施術の観点から ビジネスの観点から、成長のためのコンピューター、デジタル、オンライン技術の使用に関連して 先端技術、侵襲的機器、高度な製品調合の使用を含む、健康、安全、衛生に関するさまざまな国の規則や規制に適應する必要性 環境的に持続可能な慣行を維持することの重要性 	
	<p>各自は以下の能力を有すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康、安全、衛生上の要件に従って施術エリアを準備する。 専門的で、安全かつ衛生的な方法で顧客にサービスを提供する。 装置を設置し、道具や材料を準備する。 製造業者の指示に従って、スムーズで効果的なサービスを提供する。 最大限の効率を促す施術エリアを準備する。 顧客に安全と快適さを提供するため、魅力的でリラックスできる雰囲気を作る。 商業的に許容可能な時間枠内で施術を完了させる。 施術完了後に、ワークステーション（各選手用作業場）を掃除・整頓する。 製品のお勧めやアドバイスをする。 アフターケアと販売に関するアドバイスを提供する。 業界のトレンド、テクノロジー、高度な製品調合、流行を常に把握し、これら分野でのプロフェッショナルとして成長し続ける。 環境的に持続可能な手法を採用して施術を実施する。 	
2	プロフェッショナルな振る舞い	6
	<p>各自は以下を知り、理解していること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 顧客や同僚と良好な関係を築くための、プロとしての振る舞いと話し方の重要性 顧客の快適さと安心のための自己管理と話し方の重要性 プロのイメージを作る姿勢の重要性 問題を自分で解決できることの重要性 	
	<p>各自は以下の能力を有すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 顧客や同僚と良好な関係を構築し、維持する。 制服、身だしなみ、対人スキルに関してプロフェッショナルな印象と作法を常とする。 同僚や顧客に敬意を表す。 自身のストレスに効果的に対処する。 定期的な運動をしてバランスの取れた生活習慣を維持する。 	

セクション		相対的重要度 (%)
3	顧客ケアと人間関係	6
	<p>各自は以下を知り、理解していること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 顧客、製品やその他の関連事項に関する記録を保持するための要件 データ保護要件 顧客の快適さと控えめさ、分別の重要性 年齢、性別、文化、民族を考慮して、顧客の期待と実際のニーズを満たすこととの関係 医療サービスからの照会に対応する際のプロフェッショナルとしての手順 顧客の声に注意深く耳を傾け、要望の分析と正確な理解の助けとなる詳細な質問から得た情報を通して、施術をカスタマイズする意義 禁忌とビューティセラピストが施術を引き受けられない理由 医学的なアドバイスを参照する状況と理由 施術中に発生する可能性のあるアレルギー反応など好ましくない反応とその対処方法 異なる文化、年齢、期待、好みを持つ顧客と対話するための適切な形式やスタイルを含むコミュニケーション・スキルの重要性 ライフスタイルについての適切な提案と施術後のフォローアップを考慮して施術計画と処方が設計されていることを確認するため、顧客を総合的に評価する必要性 あらゆる領域において細部に注意を払うことの重要性 顧客との関係における効果的かつ持続的な基盤 栄養学、運動の重要性、皮膚の状態と衛生学 よく起こり得る問題の種類と、それぞれを自主的に解決する方法 施術効果の証明と、潜在的なマーケティングのために「施術前と施術後」の写真を撮影する 	
	<p>各自は以下の能力を有すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門的で、安全かつ衛生的な方法で顧客にサービスを提供する。 プロらしく歓迎して顧客を出迎え、挨拶し、席に着かせること。 顧客の期待に応え、リラックスできて思い出に残るサービスを提供する。 ボディランゲージを正確に読み取り、解釈する。 文化の違い、年齢、性別を尊重し、顧客のニーズに応える。 顧客の尊厳を守る。 目視と手を使って検査を実施する。 問診中に禁忌を識別し、それに対応する。 必要に応じて医学的アドバイスを求める。 予防的条件を特定し、それに応じて施術適応を策定する。 カウンセリングに顧客の期待と要望を明確にする。 カラー、スタイル、製品、肌や身体のケア方法に関するアドバイスを提供する。 全ての施術についてアドバイスをする。 施術中は顧客との積極的なコミュニケーションを維持する。 施術中のアレルギー反応などのいかなる好ましくない反応も認識し、適切に対応する。 施術を終える前に、顧客にフィードバックを求める。 問題を迅速に認識して理解し、解決に向けて自己管理プロセスに従う。 顧客が必ず明るい気持ちで帰れるようにする。 施術後のフォローアップ・ヒアリングを行って、顧客の満足度を判断したり、反応を緩和するための情報を提供したりする。 	
4	一時的な脱毛	10
	<p>各自は以下を知り、理解していること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 毛と肌の種類と構造 毛の成長サイクル 肌や毛の状態 ワックス脱毛/シュガーリング脱毛の施術を行うために必要な製品と機器 	

セクション	相対的重要度 (%)
<ul style="list-style-type: none"> 血液や体液を扱う際に、正しい衛生手順を実践することの重要性 アフターケアについての確かなアドバイスを顧客に提供することの重要性 環境的に持続可能な慣行を維持することの重要性 禁忌とアレルギー反応、そしてそれに応じてどのように施術を変更するかを決定するために、徹底的なヒアリングを行うことの重要性 さまざまな眉毛の成形技術とデザイン 	
<p>各自は以下の能力を有すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 衛生仕様に合わせてワックス/砂糖を準備し、テストする。 専門的で、安全かつ衛生的な方法で顧客にサービスを提供する。 顧客の毛/肌のタイプと耐性レベルを正確に評価する。 製造業者指示を理解し、それに従う。 ワックス施術の前にワックス/砂糖の温度をテストする。 顧客のニーズに応じ、また安全衛生指針に従って、緩和用製品を使用しながらフィルム、高温/体温のワックス/砂糖を塗布および除去する。 プロセス全体を通して廃棄物を最小限に抑える。 さまざまな部分にホット・ワックス、ウォーム・ストリップ・ワックス、またはシュガーリング技術を施す。 肌の外傷を最小限に抑え、ワックスや砂糖の塗布/除去を行う。 ワックス施術終了時はすべての毛を除去する。 他人への感染を起こさないために、血液や体液を安全かつ衛生的に処理する スレッディング、ピンセット、またはワックス製品などのさまざまな眉毛脱毛技術を適用し、眉毛の形を整え、輪郭をはっきりさせる。 顧客の顔の形に合わせて眉毛をデザインする。 アフターケアを行い、商品に関するアドバイスを提供する。 環境的に持続可能な手法を採用して施術を実施する。 	
5 顔	30
<p>各自は以下を知り、理解していること。</p> <ul style="list-style-type: none"> あらゆるフェイシャル・トリートメントを行うための顧客と作業場の準備方法 顔と頭の解剖学、生理学、皮膚学 禁忌とアレルギー反応、そして施術の変更方法 電気機器の使用や保守において、安全手順に従うことの重要性 さまざまな肌質と状態と、それらの対処方法 目の周りへの化学薬品の使用に関する問題 さまざまな顔、目、唇の形 希望どおりの結果を得るために必要なメイク製品の種類とカラー さまざまな眉毛の施術とトレンド さまざまなまつげの施術とトレンド 最近のメイクの傾向と流行 問題を自分で解決できることの重要性 環境的に持続可能な慣行を維持することの重要性 	
<p>各自は以下の能力を有すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門的で、安全かつ衛生的な方法で顧客にサービスを提供する。 製造業者の指示を理解し、それに従う。 顧客の快適さと控えめさを考慮して、フェイシャル・トリートメントの正しい準備方法を認識する。 顧客のニーズ、症状、禁忌、予防的条件や現在のスキンケア習慣を確認するため、施術前のカウンセリングをしっかりと完了させる。 電気によるフェイシャル・トリートメントのための顧客と作業場の適切な準備方法を把握する。 顔全体の肌分析を行う。 カウンセリングや肌分析で得られた情報を活かして、適切な施術手順を策定する。 肌質や状態、年齢、性別、顧客のニーズに合った製品を選択する。 専門的なスキンケア製品や電気器具の使用を含むあらゆるフェイシャル・トリートメントを行って顧客のニーズを満たす。 顧客のニーズに合わせてまつげティントを行う。 	

セクション		相対的重要度 (%)
	<ul style="list-style-type: none"> 眉毛の施術や成形を行い、顧客のニーズを満たす。 ファンタジーなスタイルなど、さまざまなシーンに対応するメイクを施す。 さまざまなつけまつげ（ストリップ、クラスター、単品） 自宅でのケアの指示とアフターケア、販売に関するアドバイスを提供する。 サロンでのフォローアップ施術を勧める。 環境的に持続可能な作業慣行を維持するために、製品の浪費を避ける。 	
6	身体	25
	<p>各自は以下を知り、理解していること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ボディ・トリートメントを行うための顧客と作業場の準備方法 解剖学と生理学、身体システムの病気と不調 身体のタイプ、筋肉のはり具合、肌の構造、関連する健康状態 電気機器の使用や保守において安全手順に従うことの重要性 さまざまなボディ・マッサージ施術 さまざまな身体の施術と製品 さまざまな機械によるマッサージ技術、マッサージの道具、電気器具 文化的な違いと求められること エッセンシャルオイルの性質、目的、使用法 環境的に持続可能な慣行を維持することの重要性 問題を自分で解決できることの重要性 	
	<p>各自は以下の能力を有すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> カウンセリングと身体の分析を実施して、特定した顧客のニーズを満たすボディ・トリートメント計画を作成する。 専門的で、安全かつ衛生的な方法で顧客にサービスを提供する。 さまざまな施術における予防条件と禁忌を特定し、それに応じた対応を決定する。 顧客の心地よさと控えめさを考慮して、ボディ・トリートメントのための顧客の準備を整える適切な方法を把握する。 製造業者の指示を理解し、それに従う。 顧客のニーズに合わせた適切な製品を選択する。 顧客のニーズに基づいてボディ・スクラブ製品を選択、塗布、除去する。 顧客のニーズに基づいてボディ・ラップ製品を選択、塗布、除去する。 適切なリズム、速度、圧力やさまざまな動きを用いてマッサージを行う。 さまざまなマッサージ道具の使用や機械を使用した施術 顧客の具体的なニーズに合わせて、電気を使用したさまざまなボディ・セラピーの施術を行う。 全体を通して、電気療法の施術における予防措置と安全対策を適用する。 さまざまなアロマセラピー用のオイルを使用して、各顧客の要望に応じた相乗効果が得られるようブレンドをする。 環境的に持続可能な業務の遂行を維持するため、製品の浪費を避ける。 自宅でのケアを推奨する。指示、アドバイス、販売に関するアドバイス サロンでのフォローアップ施術を勧める。 	
7	足、手、爪	15
	<p>各自は以下を知り、理解していること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 手足の全体を含む、爪や皮膚の病気、不調、感染症、トラブル 手、足、爪の構造 化学製品の安全かつ衛生的な使用 マニキュアとペディキュアの手順と施術 爪とつけ爪のメンテナンスと修復 つけ爪の利用 さまざまなネイルアートのデザインと流行 あらゆるネイルサービスにおける最新の傾向と流行 環境的に持続可能な慣行を維持することの重要性 	

セクション	相対的重要度 (%)
<p>各自は以下の能力を有すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 適切な製品と人間工学に基づいた配置でネイル施術用エリアの準備をする。 ● 専門的で、安全かつ衛生的な方法で顧客にサービスを提供する。 ● 顧客のニーズを満たすために、あらゆる種類の施術・製品を使用して、スパマニキュアやペディキュアの施術を行う。 ● 角質除去、甘皮処理、マッサージ、パック、マニキュア液の塗布を含む施術を行う。 ● 3Dスカルプチュアを含むさまざまなネイルアートのデザインを応用する。 ● 顧客のニーズを満たすため、青色UV硬化ライトで硬化するジェルポリッシュを塗布する。 ● つけ爪チップの利用 ● ネイルのさまざまな方法を利用する。 ● アフターケアを行い、商品に関するアドバイスを提供する。 ● 環境的に持続可能な作業慣行を維持するために、製品の浪費を避ける。 	
合計	100

3 評価戦略と仕様

3.1 一般的なガイダンス

評価はワールドスキルの評価戦略を用いて管理される。この戦略では、ワールドスキルの評価と採点において遵守すべき原則や技法を規定している。

エキスパートによる評価の実施は技能五輪国際大会の中核を成している。この理由により、継続的な専門性開発や精査の対象となっている。評価においてより多くの専門性が求められると、採点スキームや競技課題、また競技情報システム（CIS）などの技能五輪国際大会で使用される主要な評価手段において、将来的な使用法と方向付けに影響を与えることになる。

技能五輪国際大会の評価方法は、メジャメント（測定）とジャッジメント（判定）の2つに大きく分けられる。両方の評価方法につき、各評価細目を採点するのにどちらの方法を使用するかについて明確なベンチマークを適用することが、質を保証する上で不可欠となる。

採点スキームはWSOSにおける重要度に従う必要がある。競技課題は職種競技の評価手段であり、したがって、WSOSにも従うものである。CISはタイムリーで正確な採点の記録を可能にする。CISの精査、サポート、フィードバックの可能性は継続的に拡大している。

採点スキームは、概ね競技課題の考案過程でその指標となる。その後、採点スキームと競技課題は両者一体となってWSOSと評価戦略との関係性を最適化することを保証するため、反復作業を通して考案、作成および検証される。採点スキームと競技課題は共にその質とWSOSとの適合性を明らかにするため、エキスパートの同意を得、承認を求めてWSIIに提出される。

WSIの承認を得るための提出以前に、採点スキームと競技課題はその質を保証しCISの実効性を確保するため、WSIの職種アドバイザーとの情報交換の対象となる。

4 採点スキーム

4.1 一般的なガイダンス

ここでは、採点スキームの役割と位置づけ、競技課題を通して実施された選手の作業に対するエキスパートの評価方法、また、採点の手順と必要事項について記述する。

採点スキームは、それが各職種競技を表す基準と評価をつなぐものであるという点において、つまりそれ自体が世界的な職業を表すという点において、技能五輪国際大会における極めて重要なツールである。また採点スキームは、作業に対する各評価細目の評点がWSOS中の重要度に応じて配点されるように考案される。

WSOSにおける重要度を反映することにより、採点スキームは競技課題考案の制限範囲を定めることになる。職種競技の性質やその評価のために必要なニーズによっては、競技課題考案の手引きとして最初に採点スキームをより詳細に作成することが適切な場合がある。あるいは、最初の競技課題は採点スキームの概要に基づいて考案することができる。この時点より後においては、採点スキームと競技課題は同時に作成することが望ましい。

セクション2.1では、実行可能な代替案がない場合、採点スキームと競技課題がどの程度までWSOS内の重要度からかい離してよいかを説明している。

整合性と公平性のため、採点スキームと競技課題は関連する専門知識を持つ1人以上の独立した競技課題考案者によって考案および作成されるようになってきている。こうした例として、採点スキームと競技課題は職種競技または職種競技モジュールの開始直前まで、エキスパートには見られないようにしている。詳細かつ最終的な採点スキームと競技課題がエキスパートによって考案される場合、独立した認証と質の保証のための提出に先立ち、エキスパートのグループ全体でそれらを承認する必要がある。詳細は競技規則を参照のこと。

エキスパートと独立した競技課題考案者は、完了前に十分な余裕を持って、評価、検証および妥当性確認のために採点スキームと競技課題を提出する必要がある。また、質の保証のため、そしてCISの機能を最大限に活用するため、考案と作成のプロセス全体を通じて職種アドバイザー、評価者や検証者と協力して作業することも求められる。

全ての場合において、採点スキームの草案は遅くとも技能競技大会の8週間前までにCISに入力しなければならない。職種アドバイザーはこのプロセスを積極的に支援する。

4.2 評価基準（の項目）

採点スキームの主要な項目は評価基準（の項目）である。これらの項目は競技課題よりも前に、または競技課題と連動して得られる。職種競技の中には、評価基準（の項目）がWSOSのセクション項目と類似しているものもあれば、異なっているものもある。通常5～9個の評価基準（の項目）がある。項目が一致する、しないに関わらず、採点スキームは全体としてWSOSにおける重要度を反映しなくてはならない。

評価基準（の項目）は採点スキームを作成する個人（または複数人）により案出され、案出者は競技課題の評価や採点に最適であると考えられる評価基準（の項目）を自由に決定できる。各評価基準（の項目）はAからIまでのアルファベットで示される。評価基準（の項目）、評点の配分と評価方法は、この職種定義内に記載してはならない。これは、評価基準（の項目）、評点配分、そして評

評価方法がすべて、この職種定義の公開後に決定される採点スキームと競技課題の性質に依存するためである。

4.3 副基準

各評価基準（の項目）は1つ以上の副基準に分けられる。各副基準はワールドスキルの採点様式の項目になる。各採点様式（副基準）は、メジャメントまたはジャッジメント、あるいはその両方により評価され採点される評価細目で構成される。

各採点様式（副基準）には、採点日と採点チームの識別情報を記載する。

4.4 評価細目

各評価細目は、評価および採点される単一の項目を評点とともに規定し、また採点のためのガイドとしての詳細な説明または指示を細かく定義する。各評価細目は、メジャメントまたはジャッジメントによって評価される。

この採点様式は、配点とともに各評価細目を細かくリスト化している。各評価細目の配点の合計は、WSOSの該当セクションで指定された評点の範囲内に収めなければならない。これは、以下に示すようなCISの配点表に示され、大会開催8週間前の採点スキームの検討時に実施される。（セクション4.1を参照）

	評価基準（の項目）								セクションごとの 配点合計	WSOSの配点	相違	
	A	B	C	D	E	F	G	H				
WSOSのセクション	1	5.00								5.00	5.00	0.00
	2		2.00					7.50			10.00	0.50
	3								11.00	11.00	10.00	1.00
	4			5.00						5.00	5.00	0.00
	5				10.00	10.00	10.00			30.00	30.00	0.00
	6		8.00	5.00				2.50	9.00	24.50	25.00	0.50
	7			10.00				5.00		15.00	15.00	0.00
合計評点		5.00	10.00	20.00	10.00	10.00	10.00	15.00	20.00	100.00	100.00	2.00

4.5 評価と採点

各副基準には1つの採点チームが存在し、ジャッジメントまたはメジャメント、あるいはその両方で評価と採点を行う。同じ採点チームがすべての選手を評価し、採点しなくてはならない。これが実行不可能な場合（たとえば、すべての選手が同時に行動を取らなければならない、それを監視していなければならない場合）、競技運営委員会管理チームの承認のもとに第2段階の評価と採点が行われる。採点チームは、いかなる状況でも同国/地域人の採点をしないよう組織されなければならない。（セクション4.6を参照）

4.6 ジャッジメントによる評価と採点

ジャッジメント（判定）には0から3の数字を用いる。厳密に一貫性を保った尺度を適用するため、以下を用いて判定する。

- 評価細目ごとの詳細なガイダンスのためのベンチマーク（基準）（文言、画像、人工物、ある

いは別のガイダンス)。これは、基準評価ガイドに記述されている。

- 0～3の数字の指標
 - 0：業界水準以下の実技
 - 1：業界水準を満足する実技
 - 2：業界水準を満足しており、特定の分野においては業界水準を上回る実技
 - 3：全体的に業界水準を上回り、優秀と判断される実技

通常は3人のエキスパートが同時に各評価細目を判定し、得点を記録する。4人目のエキスパートは採点を調整および監視し、それらの妥当性を確認する。また、彼らは同国/地域選手の採点を防止するため、必要な場合には判定員としての役割を果たす。

4.7 メジャメントによる評価と採点

通常、3人のエキスパートが各評価細目の評価を行い、4人目のエキスパートが監督する。状況によっては二重採点のためにチームを2組のペアとして構成する場合がある。特に規定のない場合には、最高点または零点が付与される。点数を細分化する場合は、その採点に関するベンチマークを評価細目ごとに明確に定義すること。計算または送信のエラーを回避するためCISには多数の自動計算オプションが用意されており、その使用が義務付けられている。

4.8 メジャメントとジャッジメントの使用

基準の選択および評価方法に関する決定は、職種競技を考案する過程で、採点スキームと競技課題を通して行うこと。

4.9 職種の評価戦略と手順

ワールドスキルズは過去の制約の見直しや優良事例の積み重ねなど、継続的な改善に取り組んでいる。下記に示す本職種競技における職種評価戦略と手順はこのことを踏まえ、採点プロセスがどのように管理されているかを説明したものである。

プロとしての心構え：選手は、業界の基準に見合ったプロとしての姿勢を示さなければならない。清潔で整然とした適切な制服を着用し、宝飾品は身に着けない。選手の爪は、つけ爪やマニキュアを使用せず清潔で短くしておく必要がある（透明なマニキュア、ジェルのみ可）。髪の毛はきちんと整え、緩んで顔や首にかからないようまとめること。ビューティーセラピーの制服に適切な閉じた靴。選手は、施術中には常に手を清潔にしておくよう意識しなければならない。

顧客の準備：選手は顧客を施術に適した状態になるよう準備しなければならない。これは、選手が作業しやすく、顧客が快適に過ごせるよう顧客の位置を定めることである。タオルを手際よく丁寧にかける。顧客が身に着けている宝飾品は全て外してもらう。顧客が宝飾品を取り外せない、または外したがない場合、選手は審査担当のエキスパートにその旨を報告する。

ワークステーション（各選手用作業場）の準備と清掃：選手は、指定されたタオルや準備用の器具類を用いて、施術にふさわしい自身のワークステーションを準備する。すべての製品などを、乱雑になったり混乱したりしないよう、人間工学に基づいて配置する。作業中に使用済みの器具などを片付け、施術中のワークステーションを整然と保つこと。施術が完了すると、選手はすべてのごみを捨て、ごみ箱袋を清潔なものに取り換えてワークステーションを片付けなければならない。汚れたタオルは決められた洗濯かごに入れ、製品や容器は洗浄・消毒して製品用のテーブルに戻し、

ベッド、台車、椅子、照明、機器、洗面器、ゴミ箱は、消毒洗浄剤で拭くこと。足用やすりや甘皮用ニッパーなどの金属製の道具は、消毒剤または滅菌装置で清潔にすること。滅菌装置が提供されていない場合は、アルコールを使用する。ベッドには清潔なタオルと毛布を置いておく。ワークステーションは施術前と同じ状態であること。

施術の実施：選手は、自国で採用されている基準を用いて、自国で行うのと同じように各施術を実施する。顧客の尊厳、快適さ、安全性、衛生状態が、施術全体を通して維持される必要がある。審判を担当する各エキスパートは、審判を受けるすべての国について施術の実施に関わる情報に責任を負う。審判を担当するエキスパートは理由なく減点することのないよう、選手が用いている技術について確信が持てない場合は、質問をする。製品、機器、器具、モデルの要件に合わせるため、競技課題の作成チームに従って、評価基準（の項目）が変更、追加または削除される可能性がある。

チーフ・エキスパートはモジュールの審判を行わない。

各モジュールの審判を担当していない、手が空いているエキスパートの中からタイムキーパーを選出し、その他独立した立場のボランティアのタイムキーパーも加わる。目隠し採点の場合、モジュール進行中、審判員は全員エキスパート室で待機し、チーフ・エキスパートと検査官のみが職種競技の会場に入ることができる。

エキスパートは各モジュールで必要とされる専門用語や結果について十分に理解し、必要情報を入力しておかなければならない。

- 選手のカウチ番号は習熟の際にくじ引きで決められ、選手はモジュールごとに作業エリアを移動する。
- モデルは、各モジュールの前にワークショップ・マネージャによるチェックを受け、くじで選ばれる。
- 審判団のエキスパートと検査官は、選手の気を散らさないよう、競技進行中は会場での会話を最小限とする。

検査官は選手がいかなる形の不利益も被らないことを確実にする。報告はチーフ・エキスパートに直接行う。

採点

- エキスパートはグループに分かれ、タイムキーパー、検査官のメジャメント（測定）審判員およびジャッジメント（判定）審判員を交代で行う。
- 審査を行わないエキスパートは、検査官かタイムキーパーとなって監視を行い、選手が規則を遵守し、職種競技がスムーズに行われていることを確認する。
- 検査官はチームで構成される。検査官は常に職種競技会場に留まり、採点の証拠として写真を撮る必要がある。
- 採点が終了したら、エキスパートと選手は入って写真を撮ることができる。
- 写真は、境界の外から、または公式メディア・エキスパートによって撮影されることもある。
- 全てのエキスパートが採点を終わったら、エキスパートはチーフ・エキスパートのところに採点シートを持って行かなければならない。
- 管理者は職種定義と競技課題に取り組むものとし、チーフ・エキスパートからの要請がない限り競技会場に入ってはならない。
- 役割がないエキスパートは、チーフ・エキスパートの要請がない限り、競技フロアを離れるか、管理室で待機する。

メジャメントとジャッジメントの採点スケール

各課題には、それぞれの基準がある。採点集計様式（評点集計様式）のみが選手に提供される。

それぞれの選手に同じ採点基準を用いて、3名または4名のエキスパートが各モジュールを審判し、選手が正しい施術方法と手順を実行したかどうかを確認する。

次に、審判を担当する3人以上のエキスパートが、完了したモジュールの結果や出来栄について選手の採点を行う。

全てのモジュールと採点基準は、チーフ・エキスパートが管理する。

A. 職業倫理

職種競技マネージャとチーフ・エキスパートによる業務配置に従い、彼らと他のエキスパートと協力する。公正で正当な採点を確保すること。

B. 警告とペナルティ

次の状況の場合、警告または減点が行われる。

1. 作業の手筈配列や運営に従わず、悪影響を及ぼす。
2. 故意にトラブルを生じさせたり、職種競技や運営に関して噂を広めたりする。
3. 個人または集団で、選手の評点を意図的に上下させる、職種競技中に同国/地域エキスパートと一緒にいる、またはその他の職業倫理に反する行動をとる。

C. 採点手順と仕様：

1. 採点手順には、タブレットや紙での採点様式の記録とCISの入力が含まれている。

紙の採点様式には、横長採点様式、採点プロセスの記録（コメント様式）およびタイムキーパーの記録が含まれる。採点手順と仕様は次のとおり。

- 職種競技中、エキスパートは、記入漏れや誤採点を避けるために、選手の作業を注意深く観察する必要がある。
 - 採点中、エキスパートは、採点基準に従って採点プロセス記録に選手の作業と減点理由を明確に記録し、モジュールの完了後にエキスパート室で採点様式に評点を入力する必要がある。
 - エキスパートは、採点に関する議論で意見の相違が出たときに十分な証拠があることを保証するため、減点理由を公正かつ正確に記録する必要がある。
 - すべての記録は監査証拠のために保存される。
 - 採点様式または採点仕様において求められていない場合には、評点は恣意的に差し引かれることはない。
2. 特別な場合において採点基準を調整する場合、グループリーダーは、チーフ・エキスパートと職種競技マネージャの許可を求める必要がある。すべての選手に同じ基準が適用されることを保証するため、職種競技前にすべてのエキスパートと選手にその調整内容を知らせること。
3. エキスパートは、採点において独立した立場を保つ必要がある。エキスパートの採点に差異が見られる場合は、通例多数決が適用される。議論が残る場合には、加点または減点の証拠を提示して、採点結果について合意に至る必要がある。議論が大きくなる場合には、チーフ・エキスパートおよび/または職種競技マネージャが関与するものとする。
4. メジャメント
- エキスパートは職種競技中に鉛筆で横長採点様式に評点を記録し、グループリーダーは各モジュール後に評点に関する協議の場を設ける。
 - 各採点項目の結果が確定したら、エキスパートはペンを使用して元の鉛筆による記録をしっかりと隠し、それ以上の変更は行わないものとする。
 - すべての結果が合意された後、エキスパートはグループリーダーの採点様式に署名して、採点結

果を保証するものとする。

- 採点にタブレットが使用される場合、エキスパートは結果に合意し、チームリーダーがタブレットに評点を入力するものとする。
- フェイシャル・トリートメントのモジュールでは、メイク落とし・クレンジング、まつげと眉毛のティント落としに対する評点は、チェック表示に基づいてエキスパートによって直ちに決定されるものとする。計時によるメジャメントの評点は、タイムキーパーの記録に基づいて付与されるものとする。

5. ジャッジメント

- 競技運営委員会からタブレットが提供されない場合には、エキスパートは職種競技中に鉛筆で横長採点様式に評点を記録し、グループリーダーは、評点に関する協議に責任を負う。
- エキスパートは、グループリーダーの指示と同時に得点を提示する。ある評価細目の得点の幅が1未満の場合、エキスパートはペンを使用して元の鉛筆による記録をしっかりと隠し、それ以上の変更は行わないものとする。
- ある評価細目の得点の幅が1より大きい場合、エキスパートは簡単な議論と証拠の提示をもってその評価細目について手短かに記載する必要がある。
- タブレットがワールドスキルの技能五輪国際大会委員会によって提供される場合、評点は、評点を付与するエキスパートによってタブレットから直接CISに入力される。ある評価細目の得点の幅が1より大きい場合、職種競技マネージャはグループリーダーと直接意見を交換するものとする。

6. エキスパートは、横長採点様式、採点プロセス記録、タイムキーパー記録およびその他の記録を大切に保管する必要があり、これらの文書のいずれかを紛失した場合にはペナルティが課せられる。

7. グループメンバーの採点書類は、各モジュール後にグループリーダーの監査と署名のためチーフ・エキスパートに提出され、CISに入力されるものとする。

エキスパートの採点仕様

- 選手への妨害を避けるため、職種競技中の会話は最小限に抑えること。
- エキスパートは、職種競技中は同国/地域選手のワークステーション（各選手用作業場）に近づかないこと。
- エキスパートは、同国/地域選手の評点に関する議論に参加しないこと。
- メイクアップ、ペディキュア、マニキュアのプロセス採点では、モデル本来の状態ではなく、スキル（技能）に重点を置くこと。
- 競技課題で指定されるいくつかのチェックポイントを除いて、すべてのプロセス採点は選手の作業後に行うこと。
- エキスパートは2分以内にプロセス採点を完了すること。
- プロセス採点が2分以上続く場合は、選手に延長時間を与えること。
- 選手が採点されるのを待っている場合、タイマーを止め、採点後に再開するものとする。タイムキーパーはこれをチェックして記録を残すこと。
- 複数の選手を同時にチェックする必要がある場合、エキスパートはペアで作業し、チェック結果を共有することができる。
- すべてのエキスパートは、プロセス採点の際には作業場を離れないこと。
- 採点作業を行わないエキスパートは、作業場に入ってはならない。

5 競技課題

5.1 一般的な説明

セクション3（評価戦略と仕様）と4（採点スキーム）は、競技課題の作成について規定している。以下の記述は補足である。

競技課題は、それが単体のものでも、複数の独立または関連したモジュールの集合体でも、WSOSの各セクションで規定された応用知識、技能や振舞いに対する評価を可能とすること。

競技課題の目的は、WSOSを通して十分に、均衡が取れ、かつ真正な評価と採点の機会を採点スキームとの連携において与えることである。競技課題と採点スキームおよびWSOSの関係性が、品質における重要な指標となる。実際の作業能力との関係性についても同様である。

競技課題は、セクション2（ワールドスキルズ職業基準）で示された状況以外では、WSOSの範囲外の領域をカバーしたり、WSOS内の採点のバランスに影響を与えることはない。この職種定義では、WSOSに関係する全範囲の評価をサポートするため、競技課題の性質に影響を与えるいかなる問題についても記載する。セクション2.1を参照のこと。

競技課題は、実際の作業における応用を通してのみ知識や理解の評価を可能とする。競技課題は、ワールドスキルズのルールと規則に関する知識を評価するものではない。

現在、ほとんどの競技課題（および採点スキーム）はエキスパートから独立して考案、そして作成されている。これらは職種競技マネージャまたは独立した競技課題考案者によって、通常は大会開催12か月前から考案、作成される。それらは独立した評価、検証と妥当性確認の対象となる。（セクション4.1を参照）

以下に掲げる情報は、この職種定義の完成時点で判明する内容と秘密保持要件の対象となるものである。

詳細については、最新版の競技規則を参照のこと。

5.2 競技課題の形式/構造

競技課題は、一連の独立したモジュールである。

5.3 競技課題の考案要件

競技課題は、その基礎となる職業的役割の目的、仕組み、プロセス、成果を反映すべきである。競技課題は、その役割の小規模版を目指すことが望ましい。職種管理チームは実用性に注力する前に、競技課題の考案がセクション5.1に記されているように、WSOS全体において十分で、均衡が取れ、かつ真正な評価と採点の機会をもたらす方法を示すべきである。

競技課題は、次の6つの基準に基づいて考案されている。

セクション	基準
A	フェイシャル・トリートメント
B	ボディ・トリートメント
C	手、足、爪
D	アイ・トリートメント

セクション	基準
E	一時的な脱毛
F	メイク

5.4 競技課題の調整と作成

競技課題は、必ずワールドスキルズインターナショナルが提供するテンプレートを用いて提出すること（www.worldskills.org/expertcentre）。テキスト文書にはWordテンプレートを、図面にはDWGテンプレートを使用すること。

5.4.1 競技課題の調整（技能競技大会の準備）

競技課題/モジュールの調整は、職種競技マネージャが行う。

5.4.2 競技課題/モジュールの作成者

競技課題/モジュールは、独立した競技課題考案者（ITPD）が職種競技マネージャと共同で作成する。

5.4.3 競技課題の作成時期

競技課題/モジュールは以下のタイムラインに従って作成される。

時間	活動
大会開催10か月前	ITPDが特定され、WSIとITPDの間で秘密保持契約が締結される。
大会開催3か月前	競技課題/モジュールについての大会前情報が、ワールドスキルズのウェブサイトで公開される。
大会開催1か月前まで	競技課題の文書が、WSIの技能競技大会管理マネージャに送られる。
大会開催4日前	競技課題/モジュールが翻訳のためにエキスパートに提示される。
大会開催2日前	競技課題/モジュールが選手に提示される。

5.5 競技課題の初期評価と検証

競技課題の目的は、特定の職業における卓越した専門家の職業生活を忠実に表現するよう、選手の課題を作成することである。こうすることにより、競技課題は採点スキームを有用のものとし、WSOSを完全に表現するものとなる。この意味で、競技課題はその背景、目的、活動と期待において類する物がない。

競技課題の考案と作成をサポートするために、厳密な質の保証と考案プロセスが整っている（競技規則の10.6-10.7を参照）。ワールドスキルズによって承認されると、独立した競技課題考案者（ITPD）は競技課題の妥当性確認に先立って独立した競技課題考案者のアイデアと計画に対する初期的な検討を行い、続いて競技課題を検証するための1人以上の独立した専門家で、かつ信頼できる個人を特定することが求められる。

スキルアドバイザーは、競技規則のセクション10.7に根拠を与えるリスク分析に基づき、初期評価と検証の両方の適時性と徹底性を保証するため、この取り決めを確保および調整する。

5.6 競技課題の妥当性確認

職種競技マネージャは、競技課題/モジュールの妥当性確認に関する調整を行い、選手の材料、機材、

知識と時間の制約内で完了できることを保証する。

5.7 競技課題の公開

競技課題/モジュールは、技能競技大会前には公開されない。競技課題/モジュールは、エキスパートに対しては大会開催4日前に、選手に対しては大会開催2日前に提示される。

競技課題/モジュールの大会前情報は、ワールドスキルのウェブサイトを通じて大会開催3か月前に公開される。

5.8 競技課題の変更

競技課題は独立した競技課題考案者（ITPD）によって作成されているため、技能競技大会で競技課題/モジュールの変更が求められることはない。ただし、競技課題文書の技術的エラーとインフラの制約から生じる修正は除く。

5.9 材料または製造業者の仕様

選手が競技課題を完了するために必要となる特定の材料および（または）製造者の仕様は、大会開催組織より提供され、エキスパートセンターにあるリンク www.worldskills.org/infrastructure より入手できる。ただし、特定の材料および/または製造者仕様の詳細は秘密にされている場合があり、技能競技大会前に公開されない場合があることに注意すること。そのような物の中には、故障発見モジュールや公開されていないモジュールの物品が含まれる場合がある。

選手の材料リストは、大会開催3か月前に入手可能な大会前情報に添付されている。

6 職種管理と情報伝達

6.1 ディスカッションフォーラム

職種競技に関する議論、情報伝達、協力と意思決定の全ては、技能競技大会に先立ち、ワールドスキルの職種限定のディスカッションフォーラムで実施すること（<http://forums.worldskills.org>）。職種に関連する決定と情報伝達は、ワールドスキルのディスカッションフォーラムで行われた場合のみ有効とする。チーフエキスパート（または職種管理チームが指名したエキスパートリード）が、このディスカッションフォーラムの進行役となる。情報伝達に関するタイムラインと職種競技作成の要件については、競技規則を参照のこと。

6.2 選手の情報入手

大会登録された選手のための情報は、すべて選手センター（www.worldskills.org/competitorcentre）から入手できる。

入手可能な情報は以下の通り：

- 競技規則
- 職種定義
- 採点集計様式（該当する場合）
- 競技課題（該当する場合）
- インフラリスト
- ワールドスキルズ安全衛生および環境に関する方針と規制
- その他の技能競技大会関連の情報

6.3 競技課題と採点スキーム

公開中の競技課題は、www.worldskills.org/testprojects および選手センター（www.worldskills.org/competitorcentre）から入手できる。

6.4 大会期間中の各日の職種管理

技能競技大会中の日々の職種競技の管理は、職種管理チームが作成した職種管理計画に定められている。職種管理チームは、SCM（職種競技マネージャ）、チーフエキスパートとエキスパートリードで構成される。職種管理計画は技能競技大会の6ヶ月前から順次作成され、技能競技大会時に完成する。職種管理計画はエキスパートセンター（www.worldskills.org/expertcentre）で閲覧することができる。

6.5 一般的な最良事例の手順

一般的な最良事例の手順では、最良事例の手順と職種限定規則（9）の違いを明確に説明する。一般的な最良事例の手順は（倫理行動規程罰則システムを含む問題および紛争解決手順の一部として罰則が適用されるであろう）競技規則または職種限定規則への違反として、エキスパートや選手が責任を課されてはならないものである。場合により、選手に向けた一般的な最良事例の手順が採点スキームに反映されることもある。

トピック/タスク	最良事例の手順
競技課題	<ul style="list-style-type: none"> 競技課題は公開されないが、競技課題モジュールの大会前情報は、職種競技の3か月前に公開される。これにより、競技課題のトピックの概要が提供される。 競技課題モジュールは、エキスパートには大会開催4日前に公開される。 競技課題モジュールは、選手には開催2日前に提示される。
競技課題の翻訳	<ul style="list-style-type: none"> 競技課題モジュールは、競技課題がエキスパートに公開された直後に翻訳されるものとする。 通訳者は、辞書、オンライン翻訳、その他のデジタル手段など、競技課題の翻訳に必要な任意のツールを使用できる。 翻訳は職種競技の作業エリアでなされるものとする。
採点チーム	<ul style="list-style-type: none"> 採点チームは、各自の専門知識と経験に応じて割り当てられる。 チーフ・エキスパートは、採点を行わないものとする。
グループチームリーダー	<ul style="list-style-type: none"> 経験に応じて選出される。 各モジュールの採点チームを管理する。 チーフ・エキスパートによる採点様式の配布と回収を支援する。 委任された通りに、職種競技後の協議やその他の支援作業に参加する。 グループメンバーを招集して準備をする。 エキスパートが遅刻した場合には、チーフ・エキスパートに報告する。 エキスパートをまとめ、各エリアのインフラを確認する。 チーフ・エキスパートからタブレット、採点様式、書類、文房具を受け取る。 エキスパートをまとめ、選手の道具と材料を確認する。 選手とモデルが正しいワークステーション（各選手用作業場）にいることを確認する。 モデルを観察し、適合性を評価して、必要に応じてモデルを変更する。 予備のモデルが作業場から離れないようにする。 準備が終わったら、チーフ・エキスパートに報告する。 職種競技後 <ul style="list-style-type: none"> 肌分析様式、計時記録、メジャメント（測定）チェック結果表示、その他の文書を集める。 各モジュール後40分で採点作業を終了し、タブレットと採点様式をチーフ・エキスパートに提出する。
計時	<ul style="list-style-type: none"> タイムキーパーは、各モジュールで審判をしていないエキスパートから選ばれ、独立した立場のボランティアのタイムキーパーも加わる。 選手が規則に従い、職種競技がスムーズに進行していることを監視・確認する検査官を支援する。 くじ引きを指揮し、選手用のワークステーションを記録する。 選手とモデルによるランダムなくじ引きを準備して、ワークステーション番号を記録する。 選手とモデルのワークステーション番号の記録をチーフ・エキスパートに提出する。 チーフ・エキスパートからタイムキーパー記録を受け取る。 採点プロセスが2分を超える場合は、記録して、選手に延長時間が与えられていることを確認する。 競技の「開始」と「停止」の指示を出す。 1時間、30分、15分、5分のカウントダウンのリマインドを行う。 すべてのモジュールで選手のタイムチェック結果を記録する。 各モジュールの後に、すべての計時記録を採点のグループリーダーに提出する。
検査	<ul style="list-style-type: none"> 検査官はチームで構成され、各モジュールで審判をしていないエキスパートから選ばれる。 選手がいかなる形の不利益も被らないことを確実にする。 報告はチーフ・エキスパートに直接行う。 常に職種競技会場に留まること。

トピック/タスク	最良事例の手順
	<ul style="list-style-type: none"> 手順採点の証拠として写真を撮る。
カウチの割り当て	<ul style="list-style-type: none"> 選手のカウチ番号は習熟の際にくじ引きで決められ、選手はモジュールごとに作業エリアを移動するものとする。
モデル	<ul style="list-style-type: none"> 大会開催 4 日前から 2 日前までの間に、モデルは、WM（ワークショップ・マネージャ）と ESR（特別な責任のあるエキスパート）によって、適合性を確保するためさまざまなモジュールに合わせてチェックおよび選択される。 モデルは、各モジュールの開始前に、ESR とエキスパートのチームによって、モジュールごとに手配される。 モデルには番号が付与され、各モジュールの開始前にくじ引きによって割り当てられる。 職種競技中に問題が発生した場合に備えて、予備のモデルを用意する必要がある。 WM は、予備のモデルが作業場を離れないように確認する必要がある。
器具の故障	<ul style="list-style-type: none"> 選手は、器具の故障または代替りの器具に移行するために時間損失があった場合、必要に応じて時間を延長できる。
持続可能性	<ul style="list-style-type: none"> 選手は無駄なく、製品を経済的に利用すること。経済的・営利的な視野を持つこと。
ドレスコード	<ul style="list-style-type: none"> 業界を代表するのに適切な衣服を着用すること。職種競技中は常に、足全体が覆われた靴を履くこと。

7 職種限定の安全要件

7.1 個人用防護具

開催国/地域の規約の情報として、ワールドスキルズ安全衛生および環境に関する方針と規制を参照すること。

タスク	保護 キャップ 付き安全靴	つま先と かかとが 覆われた 頑丈な靴	一般的な 保護手袋	安全 メガネ	聴覚保護具	作業服	呼吸保護具
安全エリア用の一般的なPPE（個人用防護具）		√					
すべてのワークステーション（各選手用作業場）用	√		√	√	√	√	√

8 材料と機材

8.1 選手の工具箱

インフラリストには、大会開催組織が提供するすべての機材、材料、設備の詳細が記載されている。

インフラリストは、www.worldskills.org/infrastructureで入手可能である。

インフラリストには、次回の技能競技大会に向けて職種管理チームが要求した品目と数量が記載されている。大会開催組織は、順次この品目の実際の数量、種類、ブランド、型式を指定したインフラリストを更新する。特定の材料および/または製造元の仕様の詳細は秘密にされている場合があり、技能競技大会の前に公開されない場合があることに注意すること。そのような物の中には、故障発見モジュールや公開されていないモジュールの詳細が含まれる場合がある。

各技能競技大会において、職種管理チームは、次回の技能競技大会に備えたインフラリストの検討と更新を行わなければならない。職種競技マネージャは、スペースおよび/または機材の増加がある場合は必ず、技能競技大会ディレクターに報告しなければならない。

各技能競技大会において、技術オブザーバーは、次回の技能競技大会に向け、その技能競技大会で使用されるインフラリストを監査する必要がある。

インフラリストには、選手および/またはエキスパートが持参する必要のある品目や選手の持参が禁止されている品目は含まれない。これらの品目は以下に記載する。

8.2 選手の工具箱

選手は、技能競技大会に工具箱を送ることはできない。全ての道具は大会開催組織が提供する。

8.3 選手が提供する材料・機材・工具

選手は材料、器具、道具を大会に持ち込むことはできない。ただし、選手は習熟日（大会開催2日前）の午前中に、以下の表に規定されている道具を持ち込むことができる。これらの道具は、選手の荷物に入れて持ち込むか、現地で購入することが推奨される。

さらに選手は、セクション7の職種限定安全要求事項で指定されているように、自身の個人用防護具を準備する必要がある。

次の物品は、道具キットに入れて持ち込むことができる。

説明	写真
<p>メイク用アプリーター、メイクパレット、メイク用スポンジ</p>	
<p>アイブロウ・ペンシルと削り器</p>	
<p>パウダーパフ</p>	

説明	写真
<p>ネイルアートブラシー選手は職種競技で使用するブラシを自分で選んで持参することが可能</p>	
<p>ネイルグルー、爪やすり、バッファー</p>	
<p>眉毛用ピンセット（カミソリは禁止）</p>	
<p>ペディキュア、マニキュア用の金属製の道具ペディブレードは禁止</p>	

説明	写真
	
<p>メイク用ブラシ、眉毛用ブラシ</p>	
<p>道具ベルト、ブラシホルダー</p>	  

説明	写真
<p>アイラッシュ（つけまつげ）用ツイザー/ピンセット</p>	
<p>アイラッシュ（つけまつげ）を置くタイル、まつげミラー、エアブロー、まつげエクステ用グルー、送風機、メガネルーペ、まつげ</p>	

説明	写真
爪切り用はさみ	
懐中時計 クリップボード/フリップボード	
個別タイマー3台	

- 選手の個人用道具キットは、大会開催2日前と各モジュールの前に、エキスパートによってチェックされる。
- 毎日の道具チェックを円滑に進めるため、選手は各モジュールに必要な道具をジップロック/透明ビニール袋に入れる必要がある。
- 当項のリストに記載されていないアイテムはすべて排除される。
- インフラリストにあるすべての材料は、選手がテストするために習熟中に利用できる必要がある。

8.4 エキスパートが提供する材料・機材・工具

エキスパートは、セクション7の職種限定の安全要件に明記されているとおり、自身の個人用防護具を用意しなければならない。

エキスパートは、通訳者の防護具の用意についても責任を負うこと。

8.5 職種エリアで禁止されている材料・機材

選手とエキスパートは、セクション8.3および8.4に記載されていない材料または器具の持ち込みを禁止されている。

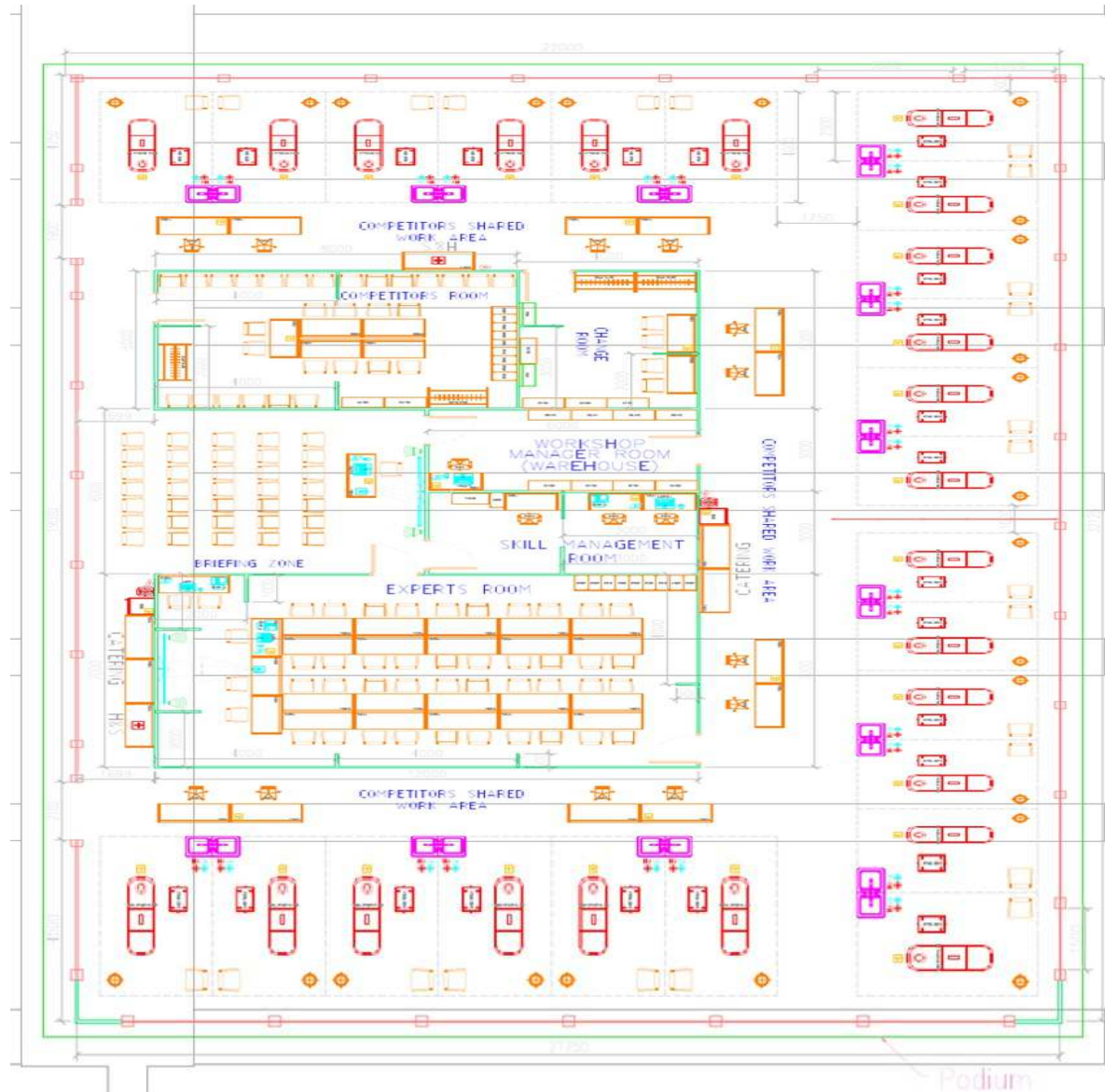
選手は、大会前情報で指定されていない限り、提供された材料のみを使用しなければならない。

選手がリストにない材料、道具および製品を使用した場合、大会中に失格となることがある。

8.6 ワークショップとワークステーションのレイアウト案

過去大会におけるワークショップのレイアウトは、www.worldskills.org/sitelayoutで入手できる。

ワークショップのレイアウト例



9 職種限定規則

9.1 一般的な説明

職種限定規則は競技規則と矛盾があってはならず、競技規則より優先されてはならない。職種限定規則は職種競技によって異なるであろう分野において具体的詳細を示し、明確にする。これは、個々のIT機器、データ記憶装置、インターネットアクセス、手順やワークフロー、文書管理や配布を含むが、その限りではない。これらの規則に対する違反は、倫理行動規程罰則システムを含む、問題および紛争解決の手順に従って解決される。

9.2 職種限定規則

トピック/タスク	職種限定規則
テクノロジーの使用 - USB、メモリースティック	<ul style="list-style-type: none"> 選手、エキスパートおよび通訳者は、メモリースティックをワークショップ（各職種競技場）に持ち込むことが許されるが、競技4日目の終わりまでロッカーに入れておかなければならない。 職種競技マネージャとチーフ・エキスパートにはこの規則は適用されない。
テクノロジーの使用 - 個人のノートパソコン、タブレット、携帯電話	<ul style="list-style-type: none"> 選手、エキスパートおよび通訳者は、個人のノートパソコンやタブレットをワークショップに持ち込むことはできないが、これらのアイテムを持参した場合は、競技4日目の終わりまでロッカーに入れておかなければならない。 職種競技マネージャとチーフ・エキスパートは、ワークショップに個人のノートパソコンやタブレットを持ち込んで使用することができる。 エキスパート、選手および通訳者は、携帯電話をワークショップに持ち込むことができるが、携帯電話は個人用ロッカーに入れて施錠する必要があり、昼食時と毎日の終わりにのみ取り出すことができる。 職種競技マネージャとチーフ・エキスパートは、職種競技固有の理由により、必要に応じて携帯電話を持ち込んで使用することができる。
テクノロジーの使用 - 個人の写真・動画撮影機器	<ul style="list-style-type: none"> 選手、エキスパートおよび通訳者は、競技4日目の職種競技終了時のみ、ワークショップで個人の写真・動画撮影機器を使用することができる。 チーフ・エキスパートが指定した写真撮影機器は、職種競技中は判定目的にのみ使用できる。この場合、競技4日目の終わりまで、写真撮影機器をワークショップから出してはならない。 職種競技マネージャとチーフ・エキスパートにはこの規則は適用されない。
テンプレート、補助器具など	<ul style="list-style-type: none"> 選手は競技課題での指定がない場合、いかなるテンプレートも補助具も使用してはならない。作業はフリーハンドのみで行う。
図面、情報の記録	<ul style="list-style-type: none"> チーフ・エキスパート、エキスパート、選手および通訳者は、競技4日目が終了するまで、ワークショップからメモ、図面や録音/録画を持ち出すことはできない。 この規則は、職種競技マネージャには適用されない。

10 来場者とマスコミに対する職種の広報活動

10.1 広報活動の実施方法

来場者とメディアの参加を最大化するために考えられる方法を、以下に掲げる。

- 技能体験
- ディスプレイ画面
- 競技課題の説明
- 選手の活動に対する理解の促進
- 選手のプロフィールの紹介
- 就業機会の情報提供
- 競技状況の日毎の掲示
- 審判に関係のない美容関係者と観客の交流

11 持続可能性

11.1 持続可能性の実践

本職種競技では以下の持続可能な実践活動を重視する。

- リサイクルの実施
- 「環境に優しい」材料の使用
- 技能競技大会後に、完成した競技課題の活用

12 産業界との協議に関する情報

12.1 職種限定規則

ワールドスキルズは、ワールドスキルズの職業基準が業界や企業における国際的に認められた最良事例のダイナミズムを完全に反映するよう努めている。そのため、ワールドスキルズは2年周期で関連する職業の役割についての説明案とワールドスキルズ職業基準に対するフィードバックが提供可能な、世界中の多くの組織にアプローチを行っている。

並行して、WSIIは3件の国際職業分類とデータベースを参照している。

- ISCO-08: (<http://www.ilo.org/public/english/bureau/stat/isco/isco08/>)
- ESCO: (<https://ec.europa.eu/esco/portal/home>)
- O*NET OnLine (www.onetonline.org/)

12.2 参考情報

このWSOSは、美容師および関連サービスと関係がある：

<http://data.europa.eu/esco/isco/C5142>

美容師、ヘアスタイリスト、美容専門家：

<https://www.onetonline.org/link/summary/39-5012.00>。

類似した職業はこれらのリンクから検索することができる。

ILO 5142

以下の表に、技能五輪国際大会（2024年リヨン大会）に向け、関連する職業の役割の説明とワールドスキルズ職業基準について打診され、有益なフィードバックを提供した組織を示す。

組織	連絡先
Beijing Qingyun Management Consulting Co., Ltd	Cici Li、トレーニングディレクター
Chongqing Gonglong Enterprise Management Consulting Co., Ltd	Wang Kui、トレーニングディレクター
CIDESCO International	Susanna Korpinen-Back、セールス・マーケティングディレクター
SAAHSP (South African Association of Health and Skincare Professionals)	Philippa Crichton、社長
Isa Carstens Academy	Yolande Swanepoe、学術部長
Shanghai Beauty Farm Medical Health Industry Co., LTD	Tang Ying、トレーニングマネージャー
The SPA Consultants	Marisa Dimitriadis、CEO
The SPA Consultants	Anna van der Walt、ゼネラルマネージャー・ディレクター
iTEC/VTCT	Elaine Willemse、国際事業開発マネージャー
Wuhan Strait Xiao' s Beauty Development Co.,Ltd.	LiLi、ゼネラルマネージャー

13 付録

13.1 付録情報

該当なし。